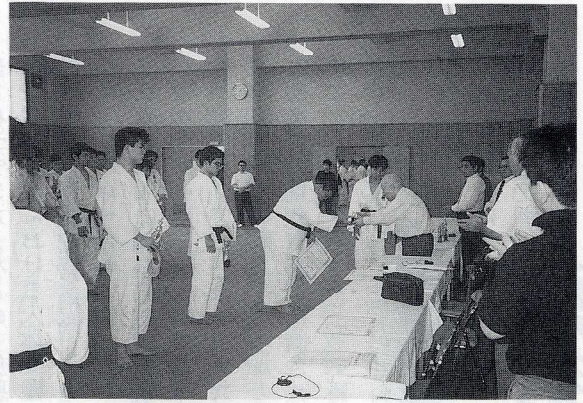
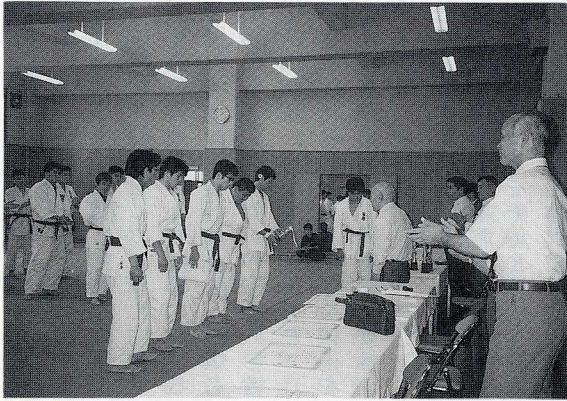


▼団体戦表彰式



▲重量級表彰式

知られざる

## 二部柔道部の生態

文  
写真・佐々木 康人 (法学部第二部)  
Sasaki, Yasuto

砂漠にも花は咲きます。二部柔道部はサボテンなみです。道場がなくなっても、時間がなくても、とりまく環境がいかに悪くても、目標を持ちそれに向かつて努力しています。

私たち広島大学二部柔道部は、六月二十三日に開催された平成八年第四十回西日本二部柔道選手権大会において、団体準優勝、個人重量級準優勝、個人重量級優勝、段外無差別三位という戦績を収めることができました。

男子十名、女子二名、計十二名の比較的小さなサークルです。毎日練習しています。

今年の春に旧総合科学部体育館が取り壊しとなったため、体育館一階にあった柔道場を使用することができなくなりました。

私たちは、寮務係の人にお願しい古い畳をゆずって頂きました。その畳を、以前書庫であった所に敷かせてもらっています。

仮設道場の広さは部屋一杯に敷き詰めて三十畳です。体を動かし練習できるのは二十畳くらいです。試合場の半分以下の場所です。毎日暴れています。コンクリートの床に直接畳を敷いているため、下手な受け身をとると息が詰まります。

窓は開きません。窓枠が錆び付いて

いるためです。強引に窓を開けたいのですが、閉めることが出来なくなりそうなので止めました。閉めきっているのに蚊だけ入ってきます。

平日の練習時間は一時間しかありません。夜九時に講義が終わり、その後練習を始めます。準備運動、整理運動は行っていない。いきなり始めます。そんな練習環境ですが、私たちは毎日練習をしています。

ところが、こんな柔道場にも危機が訪れています。この旧教育学部の建物も、来年度取り壊しのため使用できなくなりそうです。東千田キャンパスに新しい校舎が建設されていますが、柔道場を設けるという話はありません。砂漠さえもなくなりそうなのです。新校舎の中に、体育室という部屋を設けるそうです。私たちは、その部屋に畳を敷かせていただけるよう学生委員の先生にお願ひしているところです。

十月に全日本二部柔道選手権大会が大阪で開かれます。今年は、西日本二位という戦績を収めているのでシードされます。この機会を逃さず、たとえ三十畳しかない柔道場であっても、たとえ窓の開かない柔道場であっても、蚊が入ってくる柔道場であっても、初の全国大会入賞を狙って練習に励みます。